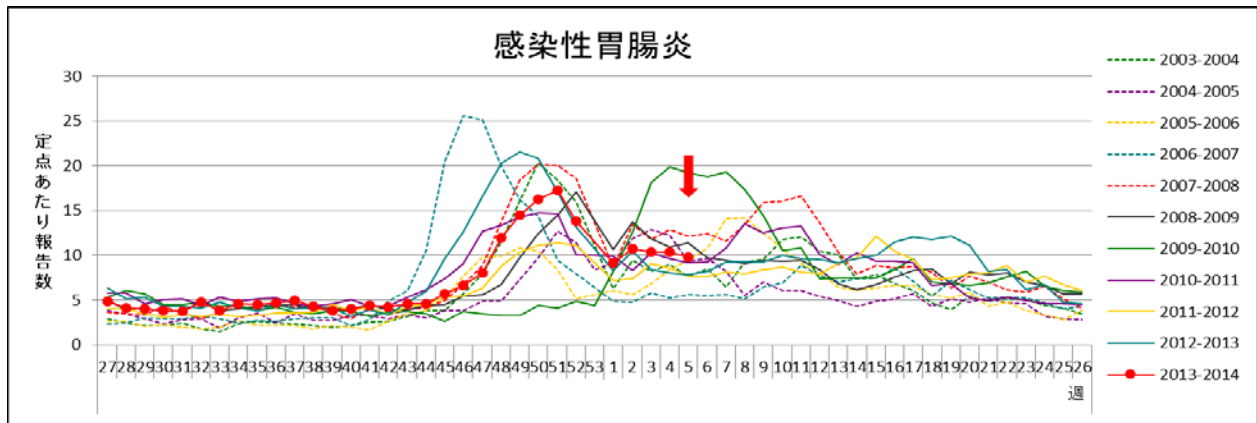


感染性胃腸炎情報 2014 年 第 5 週 (1 月 27 日 ~ 2 月 2 日)

○感染性胃腸炎は、県全体で 519 名（定点あたり 10.36 → 9.79 人）の発生がありました（53 定点医療機関報告）。

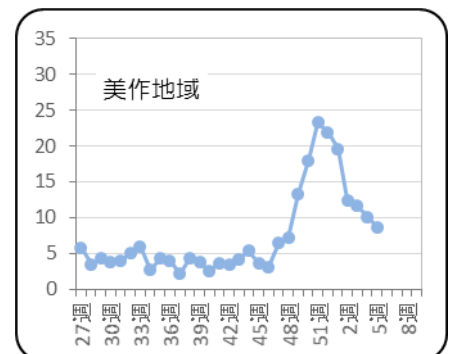
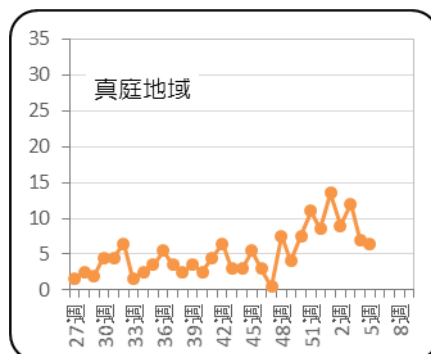
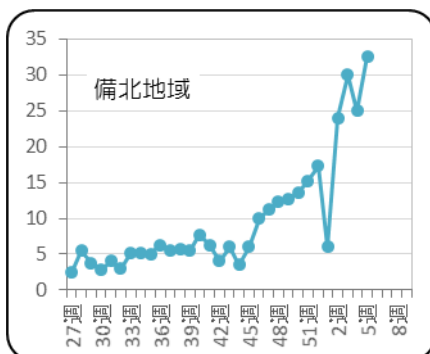
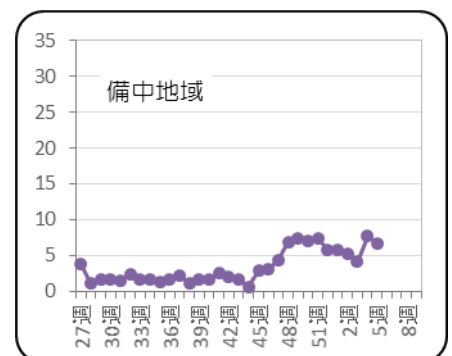
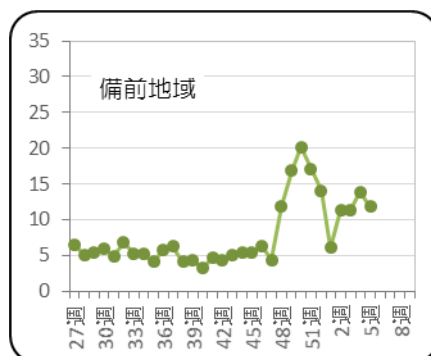
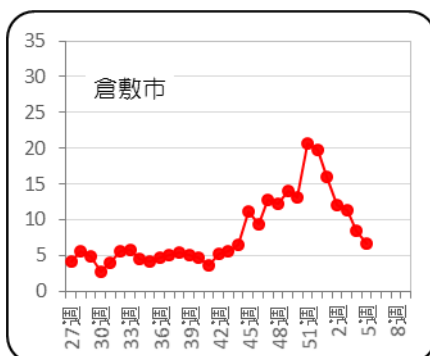
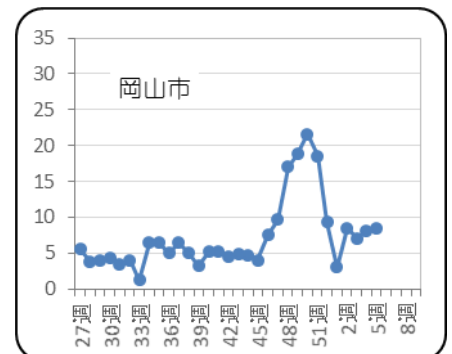
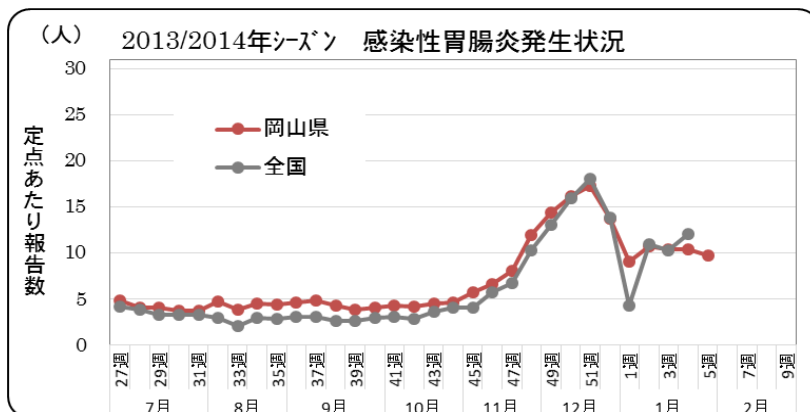


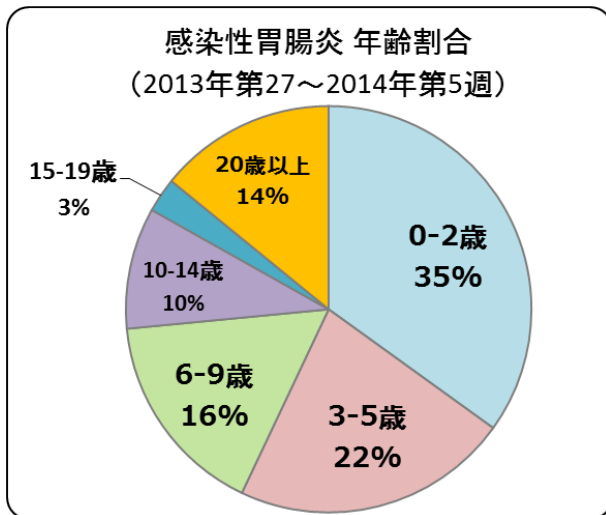
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で 519 名（定点あたり 10.36 → 9.79 人）の発生があり、前週とほぼ同数でした。県全体としての患者数は 12 月に比べて減少したものの、依然として多くの患者が報告されています。冬の感染性胃腸炎の原因はノロウイルスやロタウイルス等のウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは、手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

[○ノロウイルスに関する Q&A について \(厚生労働省\)](#)

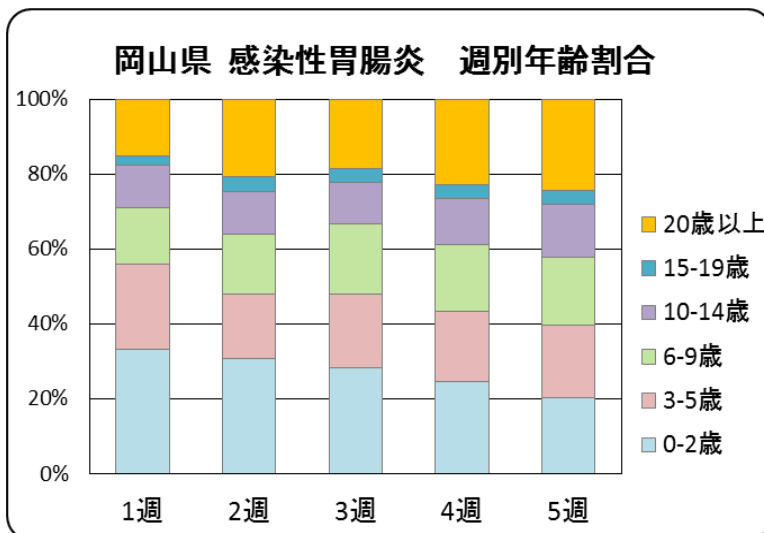
◆地域別・年齢別発生状況





レベル3		レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値
20	12	0 < 20未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。



地域別では、備北地域（32.67人）、備前地域（11.80人）、美作地域（8.67人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。備北地域では、第2週以降発生レベル3が継続しており、地域的な流行がみられています。

年齢別累計では、5歳以下の乳幼児が全体の57%を占めています。週別の年齢割合では、年長者の占める割合の増加がみられ、全ての年齢で注意が必要です。

また、例年春頃に、0～2歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加するとされています。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスに比べ重症度が高いといわれています。嘔吐や下痢により脱水症を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

◎感染性胃腸炎が多く発生しています。

石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。また、塩素系漂白剤などを使った消毒も併せて行いましょう。

通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。



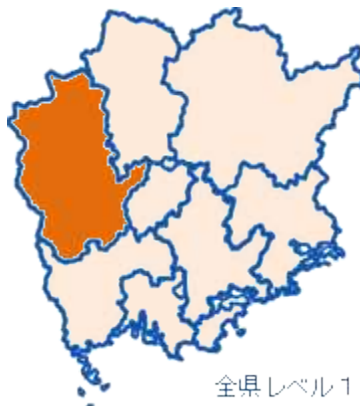
岡山県地区別 感染性胃腸炎感染症マップ 2014年 5週

2014年2月6日

10:54:14



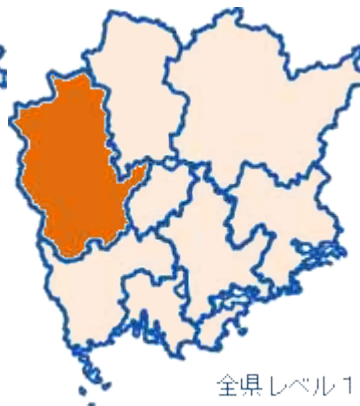
5週 1/27~



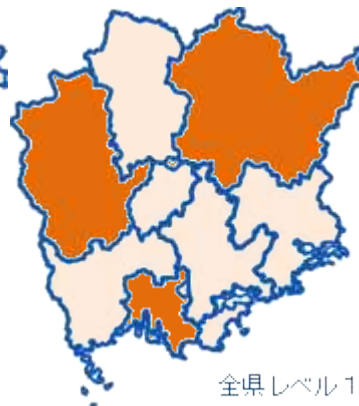
4週 1/20~



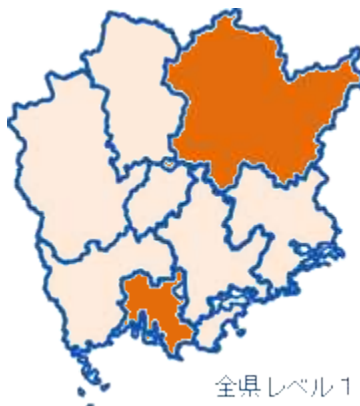
3週 1/13~



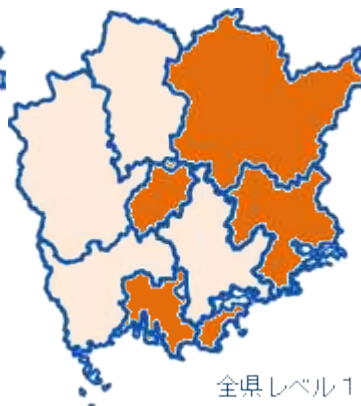
2週 1/6~



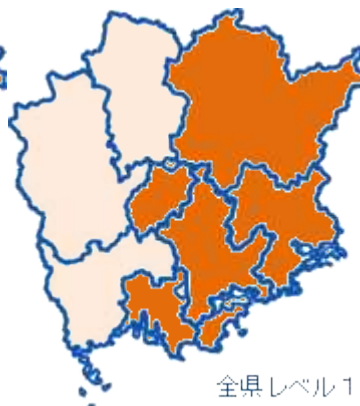
1週 12/30~



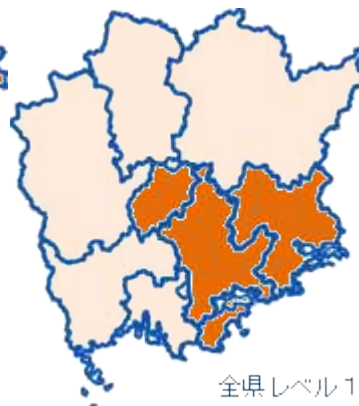
52週 12/23~



51週 12/16~



50週 12/9~



感染性胃腸炎

レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
20	12		0 < 20 未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。